

伊那谷におけるナゴヤダルマガエルの 生息範囲に関する調査

研究者 春日凜瞳 黒河内基晴 千島卓巳 根本空
指導教諭 大石英一先生 倉石典広先生 古川知世先生 丸山結衣先生
川越香世子先生 登内美枝子先生 古谷依里佳先生

要旨

伊那谷におけるナゴヤダルマガエルの現状を知るために7か所で調査を行った。上伊那農業高校、伊那北高校周辺地域では、ナゴヤダルマガエルの増加が確認された。一方で、トノサマガエルの減少や今まで確認されていなかった中間個体の出現も確認された。箕輪町においては、十分な個体数を捕獲することはできなかったが、ほかの地点と比べると、多くの個体を目視することができた。結果を踏まえると、ナゴヤダルマガエルと中間個体の増加によってトノサマガエルが減少している可能性がある。また、ナゴヤダルマガエルは素掘り水路や土塗のあぜ道、天竜川水や山水が流れてこない場所を好む傾向にある。これを踏まえると、水田から離れた場所にも分布を広められるかもしれない。そうすることでナゴヤダルマガエルの保全に繋がると考える。例えば、畑や庭に貯水桶を設置しておくことで、秋季でもナゴヤダルマガエルの生息域となり得る。ナゴヤダルマガエルの生息域を拡大させることができれば、トノサマガエルとの自然交雑を防ぐことにもつながる。本調査では、個体の形態から同定を行ったが、口腔粘膜を用いて同定を行えば、より詳細なデータを得ることができるだろう。小さな変化を察知するために継続して調査を行うことが重要だ。